

## こぼれ話 16

### たきびの詩人異聖歌の命日

童謡「たきび」の作詩者として知られている異聖歌は、昭和四十八（1973）年四月二十四日、心不全のため日野市立病院で六十八年の生涯を終えました。聖歌は昭和二十三年十月から約二十五年の後半生を日野市旭が丘で過ごし、児童文学者として活躍しました。

聖歌の墓は八王子市中野山王の喜福寺にあります。富士霊園（静岡県駿東郡小山町）にある日本文藝家協会の「文学者の墓」にも墓碑があります。聖歌の墓碑の隣には、「鞍馬天狗」シリーズなどで有名な作家大仏次郎の墓碑があります。大仏は同じ年の四月三十日に亡くなりましたが二人は親しい友人でした。大仏が童話作品「スイッチョねこ」を執筆するときに、聖歌はいろいろアドバイスをしたそうです。

また、聖歌と生前交流があった美智子皇后（当時皇太子妃）は、その死を悼んで「山茶花の咲ける小道の落ち葉焚き 童話とせし人の今亡く」と詠まれ、旭が丘中央公園の「たきび」詩碑の裏面に刻まれています。

聖歌のふるさと岩手県紫波町では、聖歌の代表作「水口」が刻まれた詩碑前で命日の二十四日、紫波短歌会による碑前祭が行われます。



▲たきび詩碑（平成11年4月24日  
建立）裏面